

2013年11月1日(金) 14:00~15:00

【出席者】

代表取締役社長 土屋 裕弘

取締役専務執行役員 営業本部長 柳澤 憲一

取締役常務執行役員 経営管理担当 小酒井 健吉

取締役常務執行役員 開発本部長 三津家 正之

常務執行役員 経営戦略担当 製品戦略部・事業開発部・ワクチン推進部担当 村上 誠一

【2013年度第2四半期決算】

売上原価

Q／従来予想の売上原価率 39.1%が、今回の修正予想で 40.6%にあがっている理由を教えてください。

A／技術導出契約金等の増収(約 40 億円)が、原価率を低減させる方向に働いたが、以下に列挙した原価率上昇要因がこれを上回った。

- ① 売上製品構成の影響。ワクチン、レミケード、シンポニーなどの仕入商品が増収、自社製品のテラビックや長期収載品が減収。
- ② 外貨建て仕入商品(おもにレミケード)に対する為替の影響。
- ③ 仲裁裁定によるレミケードの原価率低減の影響。当初予算には、この減少額を約 50 億円と見込んでいたが、為替の影響もあり、実際の減少額はその 60%程度だった。なお、レミケードの仕入価格の減少に加えて、過去分として精算金などを受け取り、特別利益 110 億円を計上しており、これらをあわせたものが、仲裁裁定の結果となっている。

Q／仲裁裁定によるレミケードの原価率の低減は、来期以降も同じ率で有効か。

A／その通り。

レミケード(関節リウマチなど)

Q／日本でも、日本化薬がバイオシミラーを申請したが、これに対抗するような営業施策を実施しているのか。

A／特にバイオシミラーを意識して施策を実施していない。効果が早いことや、確かなデータと言うレミケードの良さを周知・徹底させていくことが、結果的にはバイオシミラー対策になると考えている。レミケードは、クローン病では 11 年、RA では 10 年の実績があり、エビデンスの積み上げがなされている。最近では、ドラッグフリーに持ち込むためのタイトコントロールの普及に努めており、市場での評価は高い。逆に、これまでバイオリジクスの投与

経験の無い医師にとっては、バイオシミラーを使用すること自体が、相当に慎重なものになると想像している。

Q/DPCでどれくらい使用されているのか。DPCでの使用が多いと、バイオシミラーの影響が大きいのではないかと懸念している。

A/レミケードは、外来での投与が中心となっており、DPC施設において入院で投与されているのは40施設程度である。

#### ジレニア(多発性硬化症)

Q/ジレニアのロイヤリティの見通しは。

A/上期の実績と、下期については、為替の影響を考慮して、ジレニアのロイヤリティを含む技術導出契約金等の従来予想を約40億円増額し332億円とした。

Q/ジレニアは引き続き順調なようだが、テクフィデラの影響により、第2四半期になってポジショニングが変わっているなどと言うことは無いのか。

A/ポジショニングに変更は無いと理解している。テクフィデラも好調のようだが、ジレニア、テクフィデラの2剤で、注射剤の市場を奪っている。

Q/PML(多層性白質脳症)の副作用について追加情報があるか。

A/現時点で、ノバルティスがリリースしている以上の情報は無い。

Q/PML(多層性白質脳症)の副作用について、ステロイドや免疫抑制剤により免疫が抑制された特殊な例とリリースされているが、その理解で正しいか。

A/その通り。

Q/欧州でテクフィデラが承認された時の影響は。

A/事実として、ノバルティスの第3四半期の伸びは米国より欧州の方が大きい。影響については、お答えできるだけの情報がまだ無い。

#### インヴォカナ(2型糖尿病)

Q/下期の受取ロイヤリティはどれくらいか。

A/それほど大きな金額では無い。

#### **【開発】**

##### MT-4666

Q/MT-4666は、ドネペジルとの併用で臨床試験を実施するのか。

A/詳細については、今後エンヴィヴォと歩調を合わせてお伝えする。

Q/MT-4666の認知機能の改善は、ルンドベック/大塚のLuAE58054と同じくらいか。

A/作用機序は違うが、論文を読む限り、同じくらいの効果が出ている模様。

Q/MT-4666の消化器障害の副作用は大丈夫か。ドネペジルとの併用に影響しないか。

A/アセチルコリン系を賦活するので若干の便秘などが出ているが、ドネペジルよりは、消化

器症状の副作用は軽いと認識している。併用により増悪していると言う兆候は無い。

TA-7284

Q／TA-7284 の Weekly 製剤は開発するのか。

A／お答えすることができない。

【中期経営計画】

Q／中期経営計画の数値目標を見直さないのか。

A／2013 年度の決算発表時には、お話しできている。

Q／ジェネリック事業で 500 億円の目標は、いつ頃実現するのか。

A／残りの 2 年の中で、色々な選択肢を考えていきたい。

【その他】

Q／9 月 30 日の行政処分について、どうだったのか、社長から説明して欲しい。

A／承認書に記載のない成分を添加した製品を製造・販売していたことは事実であり、関係者の皆さんにご心配をお掛けした。今回の行政処分の対象となった行為は、新たに起こったものではなく、メドウェイ販売期間に起こっていた過去の不正行為が、業務改善計画を進める中で明らかになり、自主的に報告したものである。着実に業務改善が進んでいる証の一つと思っている。

以上